

1. 厚生省・国立公衆衛生院及び女子栄養大学時代

◇ 宮坂忠夫の健康教育基本論 — “民主的な” 方法と教材(媒体)観の転換—

足立 己幸 (女子栄養大学 名誉教授)

目的：「実践につながりやすい、有用な教材とは何か」の解答探しを事例に、宮坂忠夫先生の講演や著書「衛生教育」(初版,1958)から、“教材(媒体)観の転換”が必要であることや、学習効果を高める教材作成・活用のポイントを紹介すること。

内容：主として、次の点が重要とされていた。①現存するよい教材(媒体)というものはない。教材はその都度、学習支援専門家が学習目的や学習者の条件に合わせて、作り、活用するもの ②専制主義や自由放任主義でなく、学習者とともに進める“民主的な”衛生教育(健康教育)が基本である ③教材(媒体)の有効性は実践現場で検証され、修正を重ねてはじめて、“わかりやすい、行動変容につながる教材(媒体)”として、活用できる。これらの基本はまさに“民主的な”アプローチであり、これは健康教育の基本とされる「住民参加」や「集団討議・集団決定」等の基礎である。

提起される課題：健康教育の連携・協働の輪が広がる現在、多様な健康状態・ニーズの学習者と多様な専門分野の学習支援者が共有できる教材のあり方について、56年を経過した名著「衛生教育」にもどって、再度教材観の転換をすることが期待される。

◇ 健康づくりにおける参加の必要性再考

武見 ゆかり (女子栄養大学・大学院)

目的：宮坂先生から学んだ参加及び住民参加について、先生の教えの内容を振り返り、現在の日本の健康づくりにおけるそれらの意義を考察する。

内容：宮坂先生によれば、参加とは、ある事業とかプログラムに加わるということではなく、その企画(プランニング)または決定に参画すること、すなわち意思決定 decision-making に関する過程への参加を意味する。参加の目的は、民主化の促進、市民教育・人間教育・健康教育のため、種々の操作の戦略のための3点に整理され、これらは相互に移行し変化する。また、参加の評価では、プロセスと成果の両方が重要である。コミュニティ・オーガニゼーションにおいては、住民参加、とくに活動の企画への参加が重要な要素の1つである。

2013年より開始された健康日本21(第2次)では、健康寿命の延伸と健康格差の縮小という最終的な目標達成に向けて、個人の生活の質の向上と社会環境の質の向上という2つの視点が示された。社会環境の質の向上のためには、例えば栄養・食生活の面では、食を通じた地域のつながりの強化や食に係るボランティア活動の促進など、住民の主体的参加のある取り組みが必要である。

結論：参加の原点に立ち返り、現代私たちが抱える課題に対しても、企画段階への住民参加を推進していくことで、真の意味で、良いコミュニティづくりにつながると期待される。

2. 東京大学及びNPO活動時代

◇ 地域保健活動と健康教育

川田 智恵子（和歌山県立医科大学）

目的・方法：「埼玉県羽生市千代田地区における健康農村活動の展開と評価」，「コミュニティオーガニゼーションに関する研究」および，「住民参加についての研究」を通じて宮坂忠夫先生の業績を紹介する。

結果：健康農村活動の展開と評価は，1956年にはじめられた。健康教育と地区組織活動に重点を置き，自主的な保健活動の育成と生活の共同化の育成によって，地域住民の健康の保持増進を，究極的には住民生活全般の向上をねらうものであった。村役場が主導していた健康文化委員会は，市に合併されてからリーダーシップを発揮した。10年間の事業終了後12年経った年にも，この委員会は機能しており，住民健診受診率は毎年90%を越えていた。また，わが国のコミュニティオーガニゼーションの特徴は，町内会，自治会などの地縁組織の活動である点にある。行政依存型でなく，単なる行政要求型でもなく，内部では役員依存型でない自主組織で，民主的に運営されている組織が望ましいことが示された。さらに，地域保健計画・実施・評価には，行政，専門家集団，住民組織の参加が理想であり，地域保健への住民参加はそれ自体極めて重要な健康教育であることを示し，住民参加に関する住民教育の必要性を唱えた。

結論：健康教育研究において，地域保健計画・実施・評価の過程に住民が主体性を持って参加し，行政や専門家と協調していくかが鍵であることを示したことは，宮坂先生の大きな業績である。

◇ 健康教育専門家養成に果たした宮坂先生の役割

大津 一義（日本ウエルネススポーツ大学）

鎌田 尚子（高崎健康福祉大学）

目的：NPO 法人日本健康教育士養成機構の理事長，顧問を歴任された宮坂忠夫先生が我が国での健康教育専門家養成に果たした役割について概観する。

内容：宮坂先生は1945年前後頃から，我が国での健康教育専門家養成の必要性を訴え取り組んでこられた。先生は，ご自身もハーバード大学大学院 健康教育学専攻でMaster of Public Healthの学位を取得しており，正真正銘のHealth Education Specialistであった。また，養成面においても日本健康教育学会理事長を兼務しながら2001年に健康教育専門家養成の復興を願って設立された本養成機構の初代理事長として就任された。そして，2011年の顧問を経ての12年間に渡って，健康教育士養成制度の土台づくりと充実発展に貢献された。その拠点となったのが女子栄養大学である。副学長として，先生はNPO事務局の移設，認定校の指定，講習会・セミナー・認定試験の人的・物的提供，健康教育の研究体制づくりと人材育成，中でも，養護教諭の教育課程創設にご尽力頂いた。この安定したNPO運営のお陰で，11年間に様々な職種の認定健康教育士を129人輩出できた。

結論：宮坂先生は“健康教育専門家養成の父”，“ミスターヘルスエデュケーター”であった。これまで養成された健康教育士と協働して，これからも，先生の健康教育へのご意志を受け継ぎ，さらに充実強化して，優秀な健康教育専門家を輩出していきたい。

3. 日本健康教育学会理事長時代

◇ 憧れの宮坂忠夫先生との出会いと思い出—学会創設前史から1990年代を中心に— 島内 憲夫（順天堂大学大学院）

本稿では、憧れの宮坂忠夫先生との出会いと思い出を振り返った。学会設立の前年の1990年、宮坂先生から、日本健康教育学会の設立と常任理事への就任の話があった。1952～1953年アメリカのハーバード大学公衆衛生大学院への留学された宮坂先生は当時、日本における健康教育理論の先駆的リーダーであり、宮坂先生の依頼を大変光栄に思ったことを覚えている。また、宮坂先生は、女子栄養大学大学院修士課程保健学専攻の新設の時に「ヘルスプロモーション特論」の講義のお話もくださった。先生のライバルである山本幹夫先生が率いる順天堂大学体育学部にも所属していた私は、戸惑う一方で心躍る気持ちであった。宮坂先生との思い出を振り返り、先生に対する感謝の気持ちを改めて感じる次第である。今後も宮坂先生への憧れと健康教育への熱き思いを大切に、健康教育・ヘルスプロモーション分野の発展並びに人材育成に貢献していきたい。

◇ 日本健康教育学会設立前後と宮坂先生の業績

小山 修（日本子ども家庭総合研究所）

目的：本学会の初代幹事長、理事長である宮坂忠夫先生の学会設立前後の役割と、戦後の公衆衛生の中で果たした衛生教育の業績を学会関連資料及び文献から論考した。

内容：宮坂先生は、学会設立に当たって慎重かつ積極的な態度で臨んだ。即ち、産業、学校、地域の研究対象領域の動向を把握するための研究会を開催するとともに、国内の主だった研究者を学会設立委員として組織し、また自ら会則案を提示されるなど、学会設立にリーダーシップを発揮された。また、特筆すべき業績に戦後のわが国に衛生教育を導入され、自らパイオニアとして伝染病対策等の衛生教育の実践と衛生教育担当者の人材養成に当たられ、その業績は研究と並んで大きい。

結論：学会と健康教育の人材養成、そして健康教育学の体系化を図ることに多くを捧げられた宮坂先生の業績を、後世に引き継ぐとともに、私たちは新しいパラダイムを乗り越えていかねばならない。

◇ 日本健康教育学会を通じた宮坂先生との思い出

衛藤 隆（日本子ども家庭総合研究所）

2013年7月11日に逝去された宮坂忠夫先生は、私にとっては東大保健学科時代の恩師であったが、本シンポジウムでは本学会を通じた宮坂先生とのかかわりを中心にお話ししたい。

私は、1995年に東京大学教育学部に健康教育学分野を担当する教授として赴任したが、その機会に本学会の会員となった。この頃より再度宮坂先生とお目にかかる機会が出来た。1995年は8月に幕張メッセで第15回健康教育世界会議（IUHPE）が開催されたため、本学会の年次学会はこの年のみ開催されなかったが、以後毎年開催された学会（現学術大会）の際、またその後理事に就任させていただいた後は理事会の席にて宮坂先生の主宰される会議運営や学会に対する思いを見聞することがあった。2005年の選挙にて理事長に推挙されたことは私にとっては予想をしなかった大きな出来事であったが、盛夏の時期に今は消滅した本郷の赤門学士会館にて、本学会の運営に関する細々とした引き継ぎを受けたことを昨日のように思い出す。その後も折に触れ、ご著書を頂戴したり、本学会の黎明期のお話をさせていただき、私を陰に陽に支えて下さった。この場を借りて感謝申しあげる。

おわりに、日本における健康教育学の学会創設と研究の発展、また学徒・研究者の育成に生涯にわたりご尽力された宮坂忠夫先生のご冥福をお祈り申し上げます。